



「せんせい」「はい」
応答的な関わり



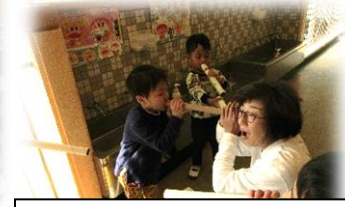
「みてみて」
達成感を味わい自信を持って行動する



平成30年 12月の保育園だより



「どんな音がするかな？」
「こんな音あんな音」
感じたことや考えたことを自分で表現する



「すごいよ」「なににな」
新しい考えを生み出す喜びを味わう



「色いろな遊び方があるね」
友だちとの違いを知る



「どうする?」「こうしてみよう」
言葉での伝え合いで創意工夫する



「みてみて」
科学や数量などに興味や関心をもつ



「ふしぎだね」
友だちと気持ちを共感する



「どうやってあそび?」
「こうしてみる?」
友だちと心を通わせる



「いくよ」「いいよ」
自分と相手を知る

A I (人工知能) に できること、できないこと ～人との関わりの中で育つ力～

7月の豪雨災害では、たくさんの方がつらい思いをし、今もまだ復旧、復興中です。しかし、この災害を通し、地域の方と仲良くなれたり、たくさんのボランティアの方との触れ合いなどよいこともたくさんありました。チャームを作ったり、絵本の読み聞かせや、紙芝居、コンサートなどを通して改めて人との繋がりの大切さを感じたところです。

今、日本では、A I (人工知能) の発展により多くの仕事がA I (人工知能) に置き換えられ、これから15年で今ある仕事の49%が消滅すると言われていています。A I (人工知能) はデータに入っていることでは動きますが、人の気持ちの部分を読みとることができません。

携帯やスマートフォン、パソコンなどの普及で、他人とコミュニケーションをとったり、関わるのが苦手な人が増えている世の中ですが、A I (人工知能) が発展すると、ますます人と関わる機会が少なくなってしまいます。乳幼児期にしっかりとお友だちと交わり群れで過ごす中で、人の温かさや、やさしさや気持ちなどに触れることで、社会で自分らしく人間らしく生きていけるようになってほしいものです。

園では人と関わる力の育成の一つの

方法として、0歳～2歳児が自然に異年齢の交流ができ、興味や関心が広がるように環境やあそびを工夫しています。幼児でも素材を通して異年齢交流する中で、あそびの展開を見守り、次の環境を準備することで、新たなあそびの展開に発展するよう、アートな生活とあそび展を工夫してきました。このことにより、トラブルや意見の違いもありましたが、自然な関わりが生まれ、遊び方の違いの発見をしたり、多くの刺激の中で「こうしてみよう」「こうやってみたらどうかな」と協力し、意欲的に活動し、あそびが発展していったり、たくさんの学びが見られました。

また職員みんなで環境の工夫をすることをきっかけに、語り合える風土を大切に、職員同士が他者を認め、様々な考えや意見を大切にしながら、“ひとりをみんなで、みんなをみんなで” という共感的な関わりの中で、よりいっそう子どもの内面も読み取ることもできたように思います。保育園という集団の中で、ひとりでは学べないことを人との関わりの中でたくさん学べるよう保育環境を整えていきたいと思います。

今月は幼児の生活発表会もあります。一つの目標に向かって、友だちとの関わりの中で、役になりきって演じたり、助け合ったり、お子さんの成長した姿をお楽しみください。

(主任保育士 松山 渉)

幼児・生活発表会

日常の保育の延長線上にある生活発表会を目指し、子ども達のあそびから生まれる表現を担当がつなぎ、劇遊びやリズムあそびを楽しみながら進めています。一人ではできないことを味わったり、みんなで共通のイメージを膨らませて楽しんできた過程に思いを馳せながら、保護者の皆様とともに、子ども達の成長を確認し合う場になれば嬉しいです。

年齢ごとの入れ替え三部制になっておりますので、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

日時：12/8 (土) 午前9時～年中
午前9時40分頃～年少
午前11時頃～年長

場所：坂みみょう保育園 2F ホール

※正式な開始時間については、12/4 (火) の全体練習が終了後、別紙お手紙を配布いたします。



地域社会とつながり

家族を意識する触れ合いを！！

今月は、幼児の生活発表会（家族）を始めとして、もちつき会（地域）、お

楽しみ会（民生委員児童委員）、伝承

あそびの会（母子保健推進員）、クリスマス交流会（ニチイケアセンター職員）、年越し（家族）など、地域社会と

のつながりや家族の一員であることを感じ合える行事がいっぱいです。

幼児さんは、お手伝いやお正月を迎える準備などを通して、親子で触れ合い

ながらよき年をお迎えください。

